2025 年度

SGT　活動レポート

農業体験講座
第 5 回　棚田ツアー

8 月 30 日(土)に第 5 回農業体験講座を、静岡市の清沢にある棚田で実施しました。中学生と高校生を合わせて 11 名が参加しました。天気予報によると、晴天で最高気温が 40 度近くになるとの予報が出されていたため熱中症に注意しての作業となりましたが、適度に水分補給をしながら順調に作業を進めることができました。

今回は、害獣避けのための防護ネットと電気柵の設置です。生徒たちは中学生と高校生に分かれて作業しました。清沢塾塾長の多田さんから本日の作業についてのお話をうかがったあと、約一ヶ月ぶりに田の状況を観察しました。すると棚田の山の手側の 13 段目の田の稲が根元に近い部分からほぼなくなっていることに気付きました。塾長の説明によると、これは、野生の鹿が田に入り、柔らかい葉の部分を食べ尽くしてしまったからだとお聞きしました。清沢の棚田にはさまざまな品種の稲が植えられていますが、鹿の食害にあった田には「神秘の米」と呼ばれる品種の稲が植えられていました。この稲は、原種に近く、葉も柔らかいため、鹿も選んで食べたのではないかとのことでした。事実その下の 12 段目の田も同じ品種の稲だけがきれいに食べられていました。動物の持つ嗅覚と触覚というのは驚くほどに発達しています。4 年前には収穫前の田に猪が入り、食べられてしまったこともありますが、この時は田の一面をほぼ食べ尽くされた状況でした。里山に近い棚田ならではの出来事ですが、寛政年間にこの田を切り開いた農民たちも同じような被害に遭い、苦労していたのではないかと思いを巡らせてしまいました。

こうしたことから私たちはこれ以上鹿の食害によって田を荒らされないように防護ネットと電気柵を設置することにしました。まずネットを固定するために周辺の草を刈ります。続いてネットを降ろし、重石を置きすき間から入れないようにします。さらにネットの上からピンク色の蛍光色のテープを張っていきます。このテープが鹿よけには絶大な効果があるそうですが、不思議です。

昼食を食べたあと、電気柵を張りました。動物が触れると微弱な電流が走り、動物を驚かせ田に近づかせないようにするためです。清沢の棚田では、電力を太陽光発電で賄い、夜間に電流が流れるように設定してあります。私たちが触れても激痛が走るようなものではありませんが、猪や鹿に対しては十分効果があるそうです。電気柵を設置したあと、塾長から稲の育成方法と品種の違いについてお話がありました。

最後にさらに残り少ない「神秘の米」の守りを固めるため、13 段目の入口は、防護ネットを二重にするため、支柱を立てました。鹿は、ある程度高さがあるネットでも飛び越えてしまうこともあるそうですが、二重にすることで入れないようにしました。

次回の第 6 回棚田ツアーは、9 月 27 日(土)です。台風が気になるところですが、田の整備をします。収穫まであと3ヶ月。次回は稲穂がさらに成長していることでしょう。楽しみですね。

本日の作業について、説明を聞きます。今回は防護ネットと電気柵の設置です。

作業の前に虫よけ剤を足に噴霧しておきます。田には山蛭もいます。

13 段目の「神秘の米」は 1/2 が鹿の食害にあい、食べられてしまいました。

12 段目も同じ品種が見事に食べられてしまいました。

清沢の棚田には、実にさまざまな品種が植えられています。

防護ネットの周辺の草刈りをしてすき間がないように重石を置いてネットを設置出来るようにします。

電気柵を張るお手伝をしました。

稲の品種による違いと育成方法についてお話を聞きました。